

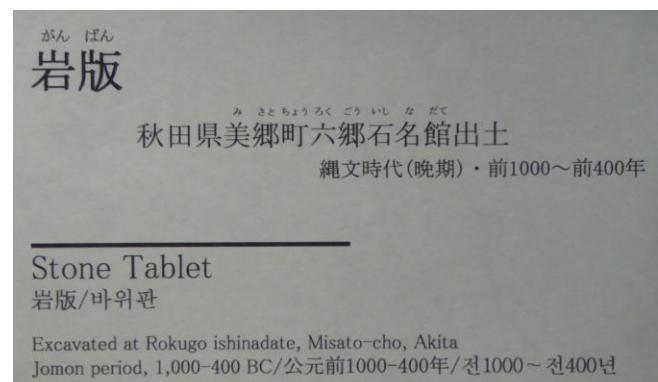
全くもって「唐突」ですが、「渦紋マニア」？を自称する管理人が古代遺物に見る渦紋を紹介します。
ただただ「(*^-^)ふ～ん」と眺めて頂ければ幸いです（笑）



@東京国立博物館

縄文時代（晩期）

前10～前4世紀

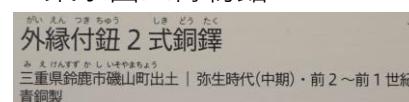


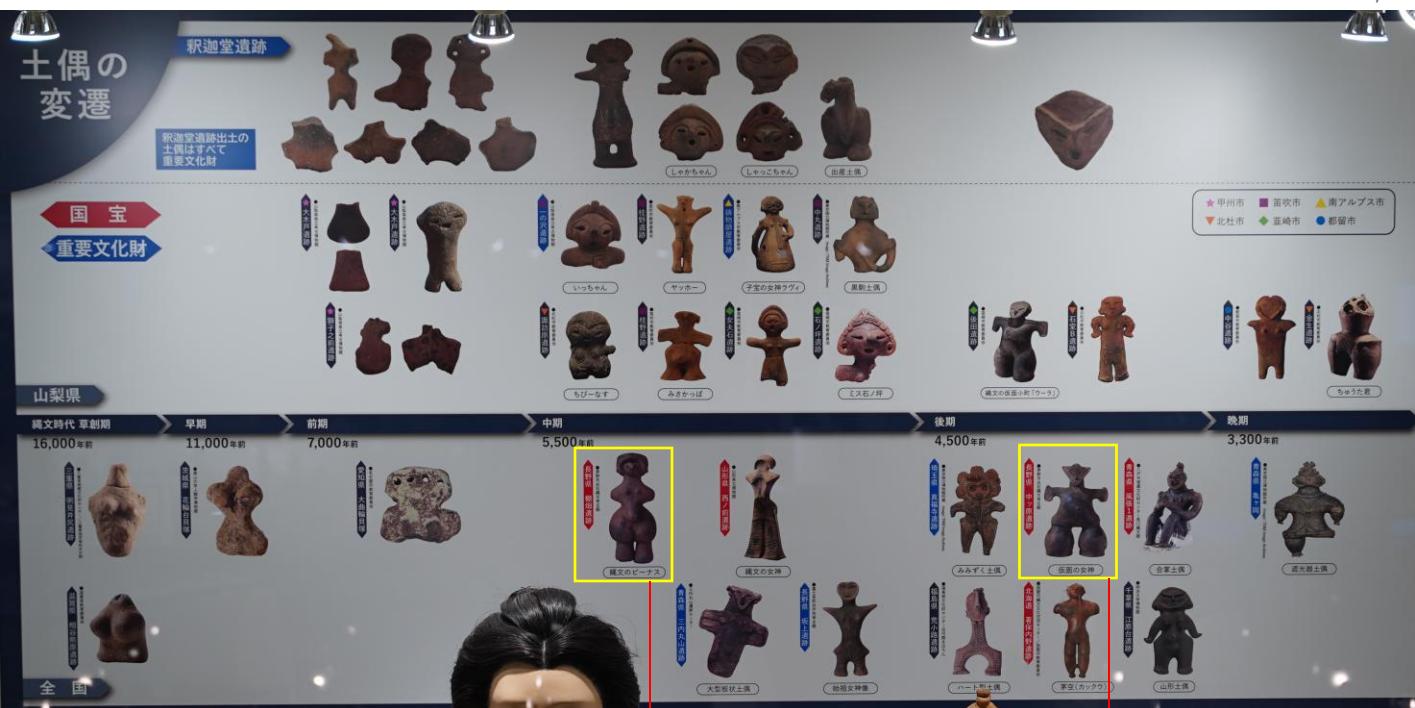
弥生時代の銅鐸などに見られる双頭渦紋
(下図) がすでに縄文時代にも？？



弥生時代の銅鐸
に見られる双頭渦紋

@東京国立博物館





釈迦堂遺跡博物館展示パネル写真に赤黄で追記

3 頁

4 頁



縄文時代中期 約 前50世紀頃 長野県茅野市 棚畠遺跡出土



縄文時代の土偶はほとんどが意図的に壊されて（分割されて？）出土しますが**極めて稀**に完体（あるいは近い形）で埋納されていたものがあります。それらは「優品の粋」のごときものです。おそらく**特別な扱い**を受けて大切にされたものと思われます。本土偶もその一つ。横たわった状態で出土しました。

装飾があるのは頭部だけですが、そこには渦紋も。頭頂の渦の端は「巻終わり」のようにも見え面白いです。



国宝：「仮面の女神」 @長野県 尖石縄文考古館

縄文時代後期前半 約 前40世紀頃 長野県茅野市 中ッ原遺跡出土



この国宝「土偶」(仮面の女神)とよく類似した土偶が、辰野町と山梨県韮崎市から出土している。どちらも、高さは20cm程度で、仕上げの程度にも差があるが、文様や頭部のディテール、全体のプロポーションは非常によく似ている。



辰野町新町泉水遺跡出土の仮面土偶
高さ 20.1cm



山梨県韮崎市後田遺跡出土の仮面土偶
高さ 21.5cm

脚にも文様があることや、たすき掛けの文様の外側に縄文が施されるといった点が、「仮面の女神」と異なっている。



これも完体に近い形で発見された貴重な一体です。人為的に右足が取り外されていました。縄文人にとって土偶を壊す(分割?)という行為がどんな意味をもっていたのか・・・知りたいですね。渦紋の意味も・・・





埋甕





装飾性の高い縄文土器としては**火焰型土器**が有名ですが、これら**水煙文土器**も負けてはいません。





これだけの技量を持っていた縄文人ですが、なぜか「写実的」な作品はほとんどないのです。人のほかにヘビ、カエル、イノシシかな?などと思えるものはあるのですが。

この点はまた別の場で・・・



作者は天才!!



渦文深鉢 @山梨県立博物館

縄文時代中期 桂野遺跡出土

土器の一周の展開写真です。このような渦巻だけの文様はほかに類例がありません。濃密な縄文土器の文様を代表するものです。細い竹を割った半円の断面を使い、ためらわず、一気に描き切っています。この土器の底には穴が開けられ、逆さまに埋めて墓として使われていました。



残念ながら撮影不可でしたので**参考文献 1**から引用させて頂きます。配置はアレンジさせて頂きました。

他に類例を見ない濃密渦文の土器です。逆さまにして墓として使われていたようです。どんな情念、思いが込められたのでしょうか？



土器：山梨県桂野遺跡



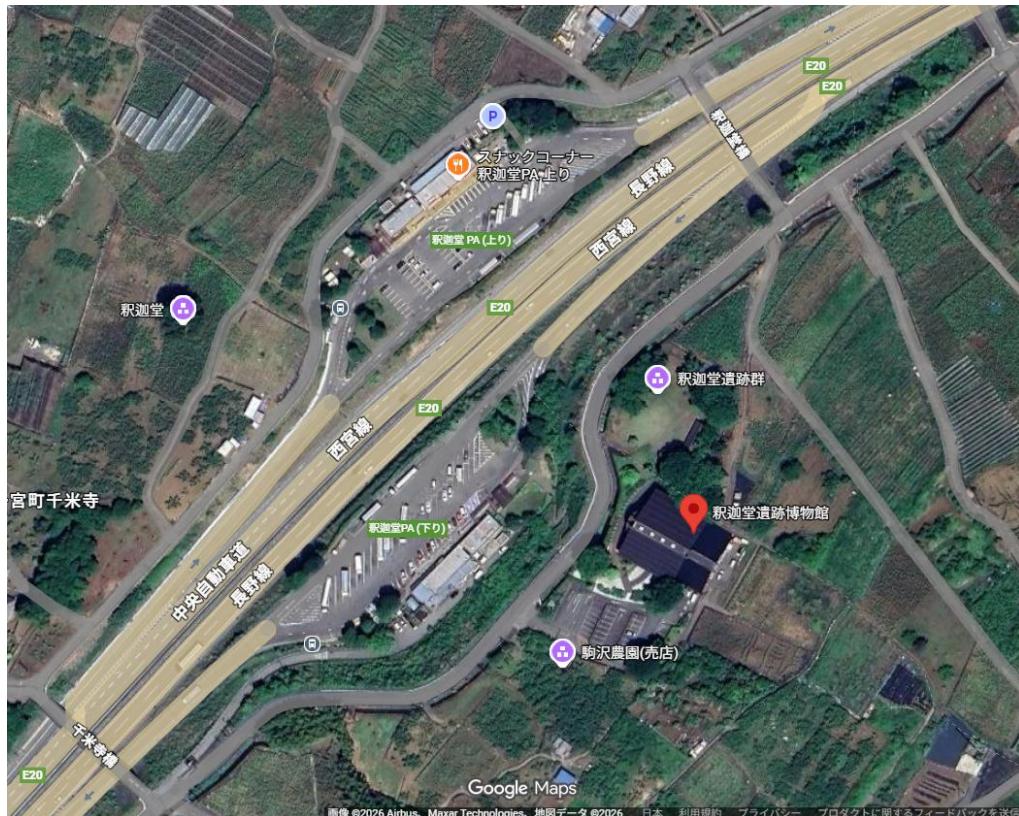
参考文献

- 1) 写真 小川忠博 監修 小野正文・堤 隆,
縄文美術館. 平凡社, 2013, 207p.

おまけ情報

サービスエリアから行ける！！

釧路堂遺跡博物館は中央自動車道**釧路堂SA**から歩いて行けます（上り・下りとも：下図参照）。
通りかかったときに休憩もかねて是非！！
土偶のあれこれ、**水煙文土器**・・・など必見展示が盛りだくさん。**縄文**の素晴らしさ、不思議さを是非楽しんでください。



Google Mapより